

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	観光課長	廣川 正
市民-09	実施事業	観光協会支援事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課 観光課
			<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課
総合計画上の位置付け	分野	観光	施策の方針	地域が一体となった観光振興の推進

1 事業の目的

対象	鎌倉市観光協会・観光客等
意図	様々な観光主体のネットワークの中心となり、観光宣伝と観光客誘致を行う鎌倉市観光協会の支援を図るため。
効果	観光消費の増大による既存産業の活性化、雇用機会の拡大等の経済的効果や、市民の誇りや郷土愛の醸成、観光客の定住促進等の社会的効果を通じて、地域の活性化につながる。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

鎌倉市観光協会の運営や鎌倉まつり、薪能等の実施事業に対する支援を行い、鎌倉の観光振興を図った。 観光情報の集約化を図るため市の観光HPと観光協会のHPとの統合を行った。
---

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
	事業の対象者数			事業の対象者数			
運営資源状況	決算値(千円)	46,683	57,242	当初予算(千円)	55,645		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	46,683	57,242	一般財源	55,645		
事業経費運営	人員配置数	0.1	0.1	人員配置数	0.1		
	人件費(千円)	874	912	人件費(千円)	848		
	総事業費(千円)	47,557	58,154	総事業費(千円)	56,493		
	市民1人当りの経費(円)	269	330	市民1人当りの経費(円)	320		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない
		協働実施済の場合のパートナー

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大	見直しの内容	事業へ統合
	<input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする		<input type="checkbox"/> 縮小		
	<input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する		<input type="checkbox"/> その他		
	<input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒				
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	観光協会は、自主財源確保に向けた努力は行っているものの、財政基盤を支えるまでには至っておらず、また2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、外国人観光客の増加を含めた多方面に渡る事業展開が求められることから、予算規模は必要に応じ拡大の方向性も検討していく。		
	<input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする				
	<input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する				

総評(評価に対する考え方、根拠等)	今後増加が見込まれる外国人観光客を含め、多くの観光客が訪れる鎌倉の観光施策の中核を担う組織として、観光協会に対し財政面をはじめ様々な支援、連携を行っていく必要がある。
-------------------	---

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	行政と観光協会の役割分担を明確化したことから、更なる協力体制を構築していく。観光協会の、更なる自主財源確保に向けた、新規事業の展開の検討を継続する。鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を引き続き実施していく。	
課題解決のために行った平成30年度(2018年度)の取組	欧米豪を中心とした富裕層マーケットへの訴求による自主財源確保に向け、新規事業の展開について協議を継続した。鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を明確化する協議を行った。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	自主財源の確保について、引き続き新規事業の展開の検討を継続する。鎌倉の観光全般のホスピタリティ向上について、観光協会が担うべき役割を実施していく。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	入込観光客数等(平成29年度) 単位:千人								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	逗子市	三浦市	横浜市
他市実績	20,424	16,480	3,028	7,655	6,115	8,210	977	6,311	51,431

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	県内全市町村対象に行う入込観光客数調査において、鎌倉市は横浜市に次ぐ数の観光客が訪れており、他市町村に比べ多いことが伺える。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	鎌倉に来る前の期待に対する満足度(来訪者アンケート+WEBアンケート)					単位	%	指標の傾向	↗	備考
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)			
当該事業の実施により、観光客の満足度を向上させるため。	目標値	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0			
	実績値	79.2	79.5	76.9	78.9	88.1				
	達成率	93.2%	93.5%	90.5%	92.8%	103.6%				

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	目標とした数値に近い結果となっていることから、引き続き維持または向上させるよう努めたい。
-----------------------	--